

森林(もり)を活かす都市(まち)の木造化推進議員連盟殿

令和5年総会資料

国産材拡大に向けた JAPICの取り組み

JAPIC（日本プロジェクト産業協議会）専務理事

林政審議会委員

丸川 裕之

2023年3月29日（水）

JAPIC(日本プロジェクト産業協議会)

会 員

建設・鉄鋼・機械・電機・鉄道・道路・自動車・セメント・銀行・商社・
コンサル等 230社

会 長

進藤 孝生 日本製鉄 会長

副会長

宮本 洋一 日本建設業連合会会長(清水建設会長)

今井 誠司 みずほフィナンシャルグループ 会長

垣内 威彦 三菱商事会長

中村 英夫 東京都市大学 名誉総長

活 動

業界と各界を跨り20年～30年先の

土木・建築インフラを具体的に提言

■防災・減災・国土強靱化

■国際立地競争力の強化

■地域の活性化



- ①三村JAPIC会長（当時）「**森林**は日本の貴重な産業資源。最大限活用を」
- ②産業界（建設、住宅メーカー等）：需要拡大したいが安定供給が不安
林産業界：需要が拡大しないと、安定供給できない
- ③JAPICと林業団体、林野庁、林産業に熱心な自治体との直接対話
- ④**安定供給**と**需要拡大**の**好循環**を**産業界**から声を上げ**林産業の成長化**に協力

林業復活・地域創生国民会議

国民運動＝産業界と国民に対する
国産材普及啓発

会長：三村 明夫(2013～2022)
元JAPIC会長
宮下 正裕(2022～)
竹中工務店特別顧問

甘利経済再生大臣
林農林水産大臣
森山農林水産大臣
石破地方創生大臣
等への提言手交

川上
+
川中
+
川下
+
産業界

森林再生事業化委員会

林産業（川上・川中・川下）と学界の専
門家と産業界による**提言、政策反映**

委員長：酒井 秀夫
東京大学名誉教授

次世代林業サミット（日田、金沢）
2013年 国産材マーク制度創設
2016年～林野庁長官に毎年政策
提言手交

国民会議 毎年1回開催

	開催	挨拶・講演(政府・自民党)
第1回	2013	安倍首相、林農林水産大臣 林野庁長官(以下毎回)
第2回	2014	西川農林水産大臣 石破地方創生大臣
第3回	2016	森山農林水産大臣 齋藤農林水産副大臣 小泉農林部会長
第4回	2017	山本農林水産大臣 小泉農林部会長 尾崎高知県知事
第5回	2018	齋藤農林水産大臣 塩谷農林戦略調査会長 尾崎高知県知事
第6回	2019	吉川農林水産大臣
第7回	2021	野上農林水産大臣 塩谷農林戦略調査会長 阿部長野県知事 濱田高知県知事 河野宮崎県知事
第8回	2022	野村農林水産大臣 江藤総合農林政策調査会長 濱田高知県知事

発起人 220名
賛同者 1,000名

日本林業協会、全森連、全木連
林業経営者協会
国土緑化推進機構
林産業界
林学界
政府、自民党、農林水産省、
林野庁
産業界(建設、住宅、機械、製紙等)

会員企業による木造化
サプライチェーンの構築
建築家のアイデアの紹介
国産材の価値の見える化

需要拡大事例 1

①国産材マークの導入・普及

JAPICが先導し制度創設。以降、全木連に移管。



②社会的インパクト評価による価値の「見える化」を紹介

見えにくい価値を可視化⇒評価指標による評価実施により山林の価値を「見える化」

CASBEE®(建築環境総合性能評価システム)の経済効果調査によれば同認証や届出を行ったビルは平均賃料より3.6%高い

③「木質化」による「心理的価値」を紹介

木視率(木肌の見える割合)が20～30%でストレス緩和。目標70%

「感性情報」の伝達に成功すれば、より高付加価値に

節目のついた木材もナラティブ(物語)化で高付加価値化

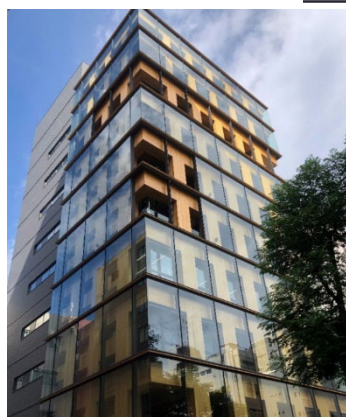
需要拡大事例 2

林野庁+経産省⇒JAPIC⇒日商(全国の商工会議所に紹介・呼びかけ)連携で会館を木質化(飯能商工会議所)

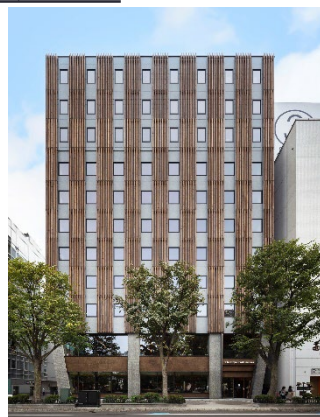


JAPIC会員による取組み

中高層建築



Port Plus(大林組)



ロイヤルパーク札幌(清水建設・三菱地所)

サプライチェーンの構築



MEC Industry(三菱地所・竹中工務店)

需要拡大事例 3

建築家のアイデアを工務店へ紹介

山田 憲明 氏(建築構造)



— 国民会議参加者の声 —

中大規模の木造構造部が実現されてきたことが実感でき、今後の発展が期待できた

木の特性を最大限に活かした素晴らしい構造美、継手構造の緻密さに魅せられた

交流拠点施設として整備定着すれば、木材の市場拡大が見込まれると思う

安井 昇 氏(建築防火)



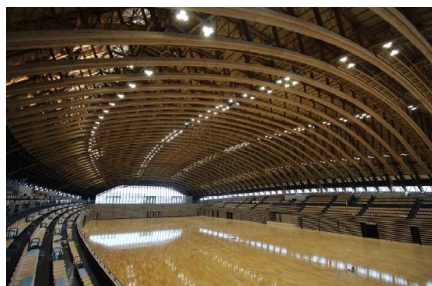
— 国民会議参加者の声 —

木造住宅の防火・耐火について大変勉強になった

建築士が木材のこと、森のことを知らないというのは同感。森側の人とともに学び、森を材を利用していけると良い

設計士が欲していることと川上たる我々山元が望んでいる接点があることを感じた

地域材を活かした大規模木造施設



大分県立武道スポーツセンター

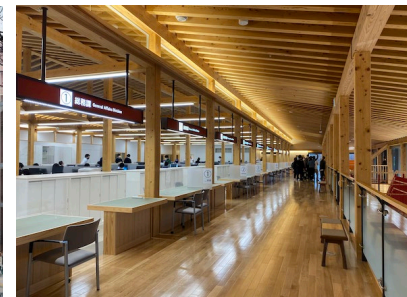


あわくら会館

都市の「木の建築」・「木の空間」



東京・表参道を木造化したイメージ



2階建て京丹波町庁舎
(ほぼ京丹波町産材を使用)

安定供給取組み事例(当会、林野庁、五木村、企業で協働)

リードタイム短縮のためのプラットフォーム

森林整備推進協定(協定者の多くがJAPIC会員)にオブザーバー参画。
地域材の安定供給とコストダウンに向けた施策を民・国連携して検討。

中間土場の整備・高度化、協調出荷の促進

五木村 中間土場(川辺川沿い)



【協調出荷の実績】

- ・令和3年 472m³
 - ・五木村森林組合
 - ・日本製紙、日本製紙木材
- ・令和4年 464m³
 - ・五木村森林組合
 - ・日本製紙、日本製紙木材

中間土場の高度化要件

高作業性

優良材からバイオマス材までの
一括分別・機械化対応

アクセス性

大型搬送車への対応、良好な接道性

マッチング機能

地域内外の需給情報を収集・交換する機能

森林・林業DX
連携

森林・林業DXと連携した立木在庫管理・
トレーサビリティ機能

※九州森林管理局資料より